

目には見えない世界を絵画という表現で、明快に、可視化・可触化したいと作品を創り続けています。

存在が無くなった時に、逆にそこに何かが存在したということを強く感じるがあります。目に見えるものと見えないものが時間軸で交錯する光景を掴まえることがこの作品を含め、ここ数年の私の制作テーマになっています。